

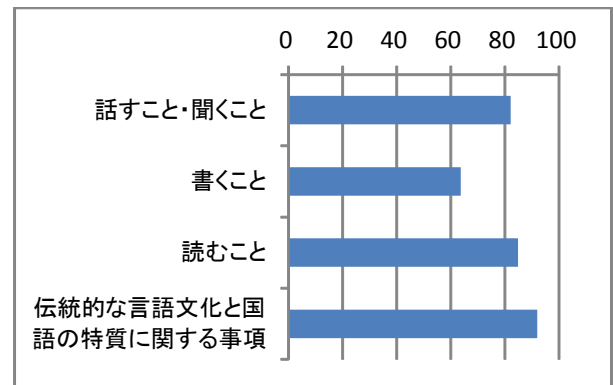
小学校国語について

※本市のデータは、市学力対策委員会の採点によるものである。

国語A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全国と比較すると4領域とも高い平均正答率を示しています。特に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」においては、高いポイントを示しています。

本市小学校では、全校で古典の暗唱に取り組んだり、読書指導の充実を図ったりしている学校も多く見られます。今後も、各領域の指導を一層充実させることが必要です。



【狙いを明確にして質問する】

話合いの学習においては、質問の狙いと内容を結びつけて指導することが必要です。具体的には、「相手はどんな内容の話をしているのか」を適切に理解し「どんな意図を持ち、どんな質問をするのか」「その質問内容は適切か」など、様々な学習の場面において、普段から「問いを發する」ための力を育成する指導が求められます。

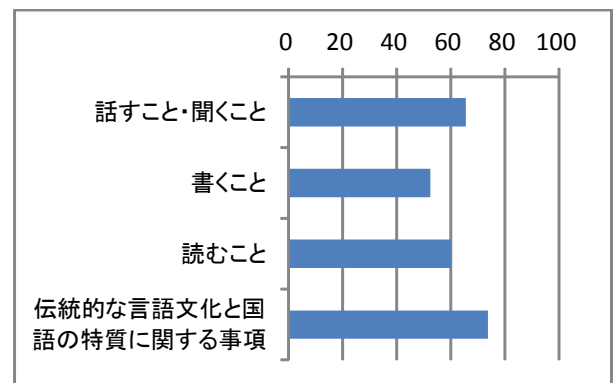
【新聞の報道記事のリードを書く】

「必要な事柄を整理し、一文にまとめて書く」については全国的に課題が見られ、本市も同様です。「二文で書いている」「取材内容を見落としている」の誤答例があります。新聞を書くなどの言語活動を設定した場合には、ねらいに応じて評価し、その後、さらに個別指導することが不可欠です。

国語B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全国と比較すると国語Aと同様に4領域とも高い平均正答率を示しています。

大問は、「動物園への訪問を依頼する手紙を書く場面」「中学生にインタビューをする際の質問の内容を決める話合いの場面」「雑誌の編集者の意図を捉える場面」の設定のもとに出題されています。特に、「訪問を依頼する手紙を書く場面」に課題が見られます。



【依頼の手紙を書く】

「手紙の後付を書くこと」は全国的に平均正答率が低く、本市も同様でした。署名と宛名の位置を間違え、最後に署名を書く誤答例が多く見られました。「礼状は縦書きで書く」活動の機会を増やすことが必要です。その際、署名と宛名の上下の意味(敬意を表す等)について指導することも有効です。

【雑誌を効果的に読む】

雑誌、パンフレットなど、様々な様式の資料を教材として準備し、目的に応じて必要な情報を捉えて書く指導が求められます。

「読むこと」の指導において、「書く」活動を重視しながら、目的と条件に応じた記述がされているかを常に自己批評する習慣を付けさせることが必要と思われれます。

質問紙調査から＜国語の学習について＞

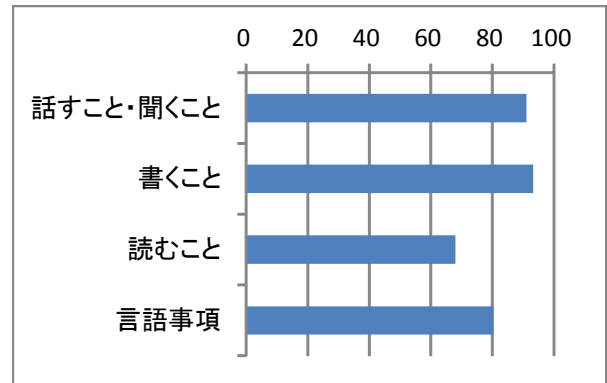
「国語の勉強は好きだ」という質問に対して「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童は72%で、全国よりも9ポイント上回っています。児童の興味、関心を大切にしながら単元の計画が作成され、授業実践されていることがうかがわれます。一方、「国語の授業の内容はよくわかる」という質問に対して「当てはまる」と答えた児童は全国よりも3ポイント下回っています。児童の実態に即して「わかった」という実感を伴った国語科授業を構築するための授業改善が一層必要であると考えます。

中学校国語について

※本市のデータは、市学力対策委員会の採点によるものである。

国語A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全国と比較すると4領域とも高い平均正答率を示しています。特に、「書くこと」においては高いポイントを示しています。「図を用いた文章を書く」ことが出題されており、今後の指導にあたっては、相手意識を明確にして、図と文章を関連付けて「校舎案内図を説明する文章」を書いたり、「学校生活アンケートのグラフに基づいて説明する文章」を書いたりするなど、言語活動の一層の工夫が求められます。



【説明的な文章を読む】

「取扱い絵表示に加えて気をつけなければならないこと」については、全国的に課題が見られ、本市も同様です。「ぬるま湯」が表示の中の「30」に示されていることを理解していない誤答例が多くあります。図と文章を関連付け、必要な情報を捉える指導の充実が求められます。

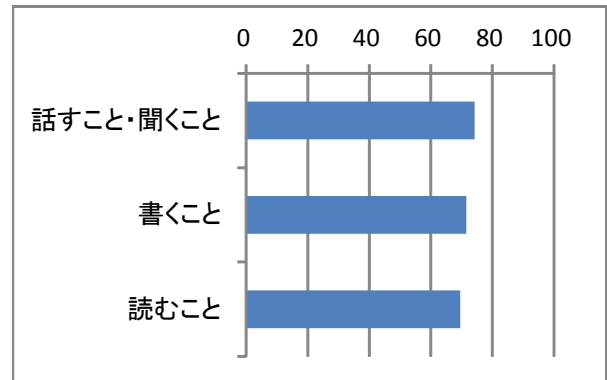
【言語事項等】

「ローマ字で書くこと」については、高い平均正答率を示しています。平成21年度調査（小学校）にも類似の問題が出題されており、その際は全国も本市も平均正答率が低く、ローマ字指導の課題が明らかになりました。その後、中学校での指導を通して、改善された様子が見られます。

国語B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全国と比較すると3領域とも高い平均正答率を示しています。（言語事項領域の設定はなし。）

大問は、複数の領域にまたがって「対談を聞く」「デジタルカメラの説明書を祖母に分かりやすく書き換える場面」「読み方の工夫を考える場面」が取り上げられています。今後の指導にあたっては、読んだ文章について自分の考えを記述する指導を充実させることが求められます。



【対談を聞く】

「祖母向けの説明書の一部を書くこと」は全国的に課題が見られ、本市も同様です。与えられた3つの条件を満たしていない誤答例が多くあります。文章から目的に応じて情報を捉えさせ、その上で様々な条件を意図的に与えて記述させる必要があります。

【物語を朗読する】

「物語に描かれている季節を選択すること」は、全国よりも10ポイント程度高いものの、50%を下回る低い平均正答率となっています。「秋」と直接表現されていないため、場面の展開の読み取りが不十分な誤答例が見られます。間接的な表現から場面の展開を類推する指導の充実が必要です。

質問紙調査から〈国語の学習について〉

「国語の勉強は好きだ」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒は、73%程度で全国よりも14ポイント程度上回っています。しかし、「自分の考えを説明したり、書いたりすることは難しい」という質問に「当てはまる」と答えている生徒は全国よりも若干上回っています。読んだ文章について評価したりする指導を一層充実させ、内容を適切に理解した上で、今まで以上に自分の意見を積極的に発信する国語の授業実践が必要であると考えます。